

令和4年度 岡山県立瀬戸高等学校 学校評価書 別紙

<評価基準> A：目標を上回った B：ほぼ目標どおり C：目標を下回った

岡山県立瀬戸高等学校

学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	評価	総合
①授業改革を進め、ICT機器を効果的に活用するとともに、主体的・対話的で深い学びを実践することで、授業が自分事となる学びを実現する。 (尚学)	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒につけたい6つの力の視点に立った授業を研究し、実践する。 1・2年次に導入されるChromebookを、すべての教科で毎週どこかの授業で使用するよう活用促進をはかる。 1年次において、新学習指導要領に対応した授業・評価を実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校改善アンケート(生徒対象)の「授業や補習に積極的に取り組んでいますか」の質問項目において肯定的評価が85%以上(前年度88%)、「授業はわかりやすいですか」の質問項目において肯定的評価が85%以上(前年度84%)になる。 1年次のすべての教科で、初見問題を取り入れることや、思考力・判断力・表現力を問う定期考査の作問に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習日や出席停止生徒に対するオンライン授業、1・2年次生のChromebookを活用した課題の配信・提出や考査の実施等、ICT活用のスキルアップがみられる。 新学習指導要領に対応した授業・評価は試行錯誤中である。新しい授業方法や授業評価について、他校の教員も参加し教員研修を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校改善アンケート(生徒対象)の「授業や補習に積極的に取り組んでいますか」の肯定的評価が88%、「授業はわかりやすいですか」の肯定的評価が85%となった。 授業改善や授業評価について研鑽を積み、魅力ある授業づくりに努めている。 1年次は多くの教科で初見問題を取り入れた作問(定期考査)をすることができた。 1年次末の成績処理はこれからであり、次年度以降に向けて評価規準等の改善に取り組んでいきたい。 	A	
	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自走できるように、ひたぶるタイム等、主体的に取り組む活動を通して、確かな学力と考える力・表現する力を育成できるように計画・立案・運用し、進路保障の一助とする。 実力考査のあり方を1年かけて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通の授業時間の中で、生徒の主体的活動が展開される場面を意識的に設ける。 キャリア・デザイン室を中心に、学びを自走させクリエイティブな生徒を育てる授業改革を推進する。 各学期で多様な授業実践を公開し、意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年を中心に、新教育課程に応じた生徒の主体的活動が試みられた。 キャリア・デザイン室による授業改革の研修会、県外視察とその共有が進められた。 1学期に授業実践の公開をすすめた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年ではClassiの動画学習パックなどを活用して、校外模試対策などを軸に家庭学習の充実を試み、不十分ながらも一定の学習をすることができた。 キャリア・デザイン室を中心に、学びを自走させクリエイティブな生徒を育てる授業改革を推進することができた。 キャリア・デザイン室により、クリスマスのセト☆フェスの第2部(午後)に外部の社会人・卒業生・生徒を交えた教員研修を実施した。 	A	
	1年	<ul style="list-style-type: none"> 授業を第一に、予習・復習をしっかりとさせる。 学習実態調査をファイルに蓄積することで、生徒が成長を実感できるようにさせる。 提出物を必ず提出させる。未提出の者には積極的に声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査において、肯定的回答が増加することを目指す。 学習実態調査の家庭学習時間が1週間平均で3時間確保できることを目指す。 学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の質問項目において肯定的評価が80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシート「授業を第一に、予習・復習をしっかりとすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答をした生徒は64.2%であった。 4月の学習実態調査では、平日・休日合わせた1週間平均の学習時間は129分であった。担任面談で個別に声かけをし、Classiの利用促進を呼びかけるなど、家庭学習習慣の定着を図る。特に4点固定(起床・帰宅・学習開始・就寝時間)を意識した生活リズムを確立させる。 長期休業中の課題については、教科担任だけでなく学級担任も提出状況を把握し、課題提出を呼びかけることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシート「授業を第一に、予習・復習をしっかりとすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答をした生徒は59.6%で、1学期よりも約5%下がった。 9月の学習実態調査では、平日・休日合わせた1週間平均の学習時間は189分であった。冬季休業前には、学習時間の確保を意識させるために、予定を把握し、休業中の学習計画を立てる指導を行った。 課題の提出について、学年団全体で呼びかけた結果、期限に遅れる場合には教科担任に申し出るなど、「報告・連絡・相談」ができる生徒が増えてきた。 	B	
2年	<ul style="list-style-type: none"> 「予習」→「授業」→「復習」の学習サイクルを維持させ、自分のための勉強をさせる。 「瀬戸高学びのスタンダード」を遵守させる。 課題・提出物を必ず提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査において、肯定的回答が85%以上になることを目指す。 学習実態調査の家庭学習時間が平日3時間、休日5時間確保できることを目指す。 学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の質問項目において肯定的評価が85%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期振り返りシート「予習」→「授業」→「復習」の学習サイクルを維持しつつ、そのサイクルを応用し、自分のための勉強ができましたか。肯定的回答72% 瀬戸高学びのスタンダード(ノート・メモのとりかた)を定着させることができたか。肯定的回答91% 課題・提出物を必ず出すことができたか。肯定的回答90% 学習実態調査(4月)家庭学習時間(平均)平日137分、休日239分 Chromebookを活用して出席停止中等の生徒に対しオンライン授業を実施できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期振り返りシート「予習」→「授業」→「復習」の学習サイクルを維持しつつ、そのサイクルを応用し、自分のための勉強ができましたか。肯定的回答73% 瀬戸高学びのスタンダード(ノート・メモのとりかた)を定着させることができたか。肯定的回答89% 課題・提出物を必ず出すことができたか。肯定的回答81% 学習実態調査(9月)家庭学習時間(平均)平日146分、休日221分 授業に限らず、様々な場面でChromebookを活用することができた。 	B		

3年	<ul style="list-style-type: none"> ・受験に対応した、確かな学力・表現力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、定期考査、補習、模試などの学習活動に真剣に取り組ませる。 ・学習実態調査や個人面談を通して、何をどのように学習すべきかを考えさせ、家庭学習時間の確保（平日5時間・休日7時間）ができるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期末段階では、まだまだ意識は低く平日の学習時間5時間以上は7%（3時間以上25%）、休日の学習時間7時間以上は12%（5時間以上26%）に留まっている。 ・ひたぶる学習会はI期68名（7/28～）参加、II期79名（8/1～）参加であった。今後、面談などを通じてさらに意識を高めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標であった学習時間の確保は、平日5時間以上が11%（3時間以上43.7%）、休日7時間以上が30%（5時間以上48.8%）と不十分であったが、中間期に比べると増加がみられた。年内入試で進路が決定し、学習時間が減少したであろう生徒もみられる中、休日は9時間以上の学習時間の生徒は21.3%おり、大学入学共通テスト・二次試験・私立入試などに向け努力できている生徒も多い。全員の生徒が最後まで努力できるようサポートしていきたい。 	B
----	---	---	--	---	---

<p>② 生徒が主体的に行動し、自らの成長を実感できる取組を進め、将来は自立した社会の構成者として活躍する素地となる、より良くなるうとする力の育成を行う。</p> <p>（自主）</p>	<p>教務課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体のオープンスクールを企画・運営することで、生徒の主体性を養うとともに、本校の魅力発信に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様、オープンスクールにおいて、生徒からアイデアを募り、生徒主体の新たな取り組み企画にさらに挑戦してみる。 ・オープンスクールの中3生参加者数を、一昨年の300人以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でオープンスクールを無事に実施した。生徒による学校紹介動画作成や「中学生と高校生の交流会」等を行い、本校生徒ものべ60名が参加した。中3生徒参加者は215名（昨年168名）であった。また10月の学校説明会もオープンスクールと同様の形態で実施した。参加者は158名（昨年102名）であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールや学校説明会等において生徒主体の活動を行うことができた。また中・高生徒会執行部交流会や部活動交流等を通じて、本校の魅力をアピールすることができた。 	A
	<p>生徒課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会主催の学校行事で、生徒主体の活動を実践するとともに、生徒自身が計画・運営し、全校生徒で行事を盛り上げることができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸高祭アンケートの満足度において、全体的に「よい」の数値で90%前後の満足度を維持する。特に1,2年生については、Chromebookを活用して、アンケートの精度をあげる。（昨年度97.2%。） ・令和5年度導入の新制服について、生徒会が中心となって、生徒主体でデザイン等を決めてゆく。できるだけ中学生も関われるように取り組みを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸高祭については、新型コロナウイルス対策のため、さまざまな制約はあったが、先生方のご尽力と生徒の努力のおかげで、学級閉鎖等なく開催でき、全体的には満足している。アンケートはこれからとるが、精度を上げるために、学校での時間を確保して、生徒に入力させたい。 ・夏服や、替えのスカート、エンブレム等の選定の際、本校生徒や中学生が主体的に関わることができた。オープンスクールの制服披露の際も、生徒が積極的に活動し、中学生の興味、関心を引いていた。今後は、令和5年度の導入に向けて、校則の整備をしてゆきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸高祭の評価については、今年度、生徒向けのアンケートの中で、全体を評価する項目を外したので、数値で確認することはできなかったが、おおむね好評であったと思われる。改善・発展させられることなど年度中に総括を行い、できるだけ生徒主体で改善が図れるように指導していきたい。 ・令和5年度導入の新制服については、おおむね見通しが立った。年度内に、校則の整備を行い、「入学のしおり」、「生徒必携」等の改訂を進め、十分な準備をして新入生を迎え入れたい。 	A
	<p>進路指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の進路実現に向けて、様々な活動ができるよう、情報や機会の提供を面談・研修会などで進めていく。 ・新しい入試制度に対して、最新の情報収集と情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面接週間時の内容ポイントを学年団で共有し、共通理解を図りながら充実した面談が出来るようにする。 ・3年生はひたぶるタイム等の成果を踏まえ、個人の進路選択について視野の拡大・深化をはかり、個の学びに4月当初の早い時期から繋げていく。 ・進路検討会等の機会を利用して、教員研修の時間を学期に1回以上持つ。 ・学校改善アンケート（生徒）における進路情報提供に関する満足度を昨年度（88%）より高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談時の内容などについて学年毎で共有が図られた。 ・1学期に外部講師による座談会などを行い、個に応じた進路学習をすすめた。 ・第1回進路検討会で小論文の研修講座を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談時の内容などについて、学年で共有が図られた。この結果、学校改善アンケートにおける面談についての満足度を前年度86%から87%へと微増した。 ・学校改善アンケート（生徒）における進路情報提供に関する満足度を昨年度（86%）より高めることができた。今年度87%。 ・1・2学期を通じて、外部講師による座談会を23講座実施し、前年度19講座、のべ149名参加から、今年度はのべ199名の生徒の参加を得た。 ・第2回進路検討会で新課程入試の情報共有を研修として実施した。 ・新教育課程の情報に関する共通テストに関する情報の収集と共有を進めた。 	B

厚生課	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会や環境・防災委員会の活動推進を行う。 生徒自らが、健康や防災に関心を持ち、様々な体験を通して学んでいく姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会がそれぞれの立場で、健康や防災等について活動し、機会があれば報告会（発表会）を開催したい。 歯科治療率75%以上を目指す。 各学年に対して、がん教育のLHRを実施し、理解度を測るアンケートで80%をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> がん教育は1,2年生で実施することができ、健康診断の重要性や性の違いにより発生するがんの違いなどが理解できたと思う。時間の関係でアンケートは実施することができなかった。3年生は、将来のパパ・ママになることを想定し、育児や経済的側面からの人生設計などについて、助産師を招き講演会を実施した。 保健委員会、環境防災委員会ともに平素の活動、瀬戸高祭での活動を通して、生徒に健康や環境の大切さを伝えることができている。防災に関する発表会は、11月の江西学区防災キャンプを予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> がん教育を1・2年生で実施することができた。国民の2人に1人が罹るという状況や健康診断による早期発見の重要性を伝えることができた。3年生は、将来親となる時の心構えや現実的な課題などについて深く知ることができた。今後も、各学年でより身近なテーマを設定し、健康講座の特別活動を計画していきたい。 11月に江西学区の防災キャンプがあり、避難所運営ゲーム（HUG）の瀬戸町版を作り探究した2年生が、地域の人に実際に使ってもらい成果を発表できたことはよかった。新聞に取り上げられたこと、岡山県教育庁の関係者にも励ましの言葉をいただいたことなど、探究した生徒は知識を増やし貴重な体験をしたことにもなった。この活動を通して瀬戸高校の知名度向上にもつながったと感じている。 歯科治療向上の目標数値達成には至らず、課題を残す結果となった。いかに治療率を上げていくかが今後の課題である。 	A
1年	<ul style="list-style-type: none"> 部活動、学校行事に主体的に参加させる。 「一期一会」をテーマに、新しい人、新しいもの、新しい自分との出会いを大切にさせる。 SHR連絡は極力簡潔に行い、メモや手帳の活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査において、肯定的回答が増加することを目指す。 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシート「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答をした生徒は77.7%であった。入部率は他学年よりやや低いものの、瀬戸高祭では大多数の生徒が積極的に活動することができていた。 年次通信「一期一会」を通じて、進路探究につながる意識付けを引き続きおこなっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシート「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答をした生徒は76.0%であった。数値はやや下がったものの、肯定的回答をした生徒が多かった。 年次通信「一期一会」を定期考査や実力考査の2週間前に発行し、計画的な学習を呼びかけた。 ホームページの「大学研究プラン」に登録をして、生徒の興味関心をもつワードから、関連する学問の動画が見られるようにし、冬季休業中に動画を見るワークシートに取り組みさせた。 	B
2年	<ul style="list-style-type: none"> 服装や言葉遣い、ルール・締切の遵守、メモの活用等、1年次に習得した基本的な生活態度を応用させる。 情熱を持って文武両道を目指し、諸活動に主体的に参加させる。 楽しむときは大いに楽しむ、学ぶときは大いに学ぶ、メリハリのある学校生活を積極的に送らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査において、肯定的回答が85%以上になることを目指す。 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が85%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期振り返りシート1年次で習得した服装や言葉遣い、ルール・締切の遵守、メモの活用等を校内外の様々な場面で応用することができましたか。肯定的回答95% 情熱を持って文武両道を目指し、諸活動に主体的かつ工夫をこらして参加できましたか。肯定的回答96% 楽しむときは大いに楽しむ、学ぶときは大いに学ぶ、メリハリのある学校生活を積極的に送ることができましたか。肯定的回答96% 生徒が企画、運営したレクリエーション「クラス対抗バレーボール王！！」を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期振り返りシート1年次で習得した服装や言葉遣い、ルール・締切の遵守、メモの活用等を校内外の様々な場面で応用することができましたか。肯定的回答93% 情熱を持って文武両道を目指し、諸活動に主体的かつ工夫をこらして参加できましたか。肯定的回答89% 楽しむときは大いに楽しむ、学ぶときは大いに学ぶ、メリハリのある学校生活を積極的に送ることができましたか。肯定的回答96% 瀬戸高祭や修学旅行で生徒が主体的に活動できた。 	A
3年	<ul style="list-style-type: none"> 校内諸活動に意欲的に参加する。 自分の進路実現に向け、積極的に進路研究に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動など、参加する意義を理解させ積極的に取り組ませる。 入試形態、科目など自ら調べ、入試に向け学校生活、家庭生活をデザインできるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動においても「高校生活最後の活動」という意識を持ち、互いに協力しながら取り組んでいた。 多くの生徒は進路に向けての情報収集をはじめ、行動に移すことができているが、「自分事」としてとらえきれていない生徒もいる。さらに指導していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭、体育祭をはじめとする学校行事は、仲間と協力しながら充実したものに行っていた。 自分の進路に関しても真剣に考え、入試形態に応じ努力を重ねることができた。 	B

<p>③ 主体的に他者と関わり、健全で良好な人間関係を築き、その関係を基にした実践的なコミュニケーション能力の育成を行う。</p> <p>(健康)</p>	<p>教務課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあってもICT機器等を駆使しながら、生徒が学校外とつながる機会を設ける。そのために、外部交流可能な情報提供を随時行い、多様な人々と積極的に交わる意識の高揚を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や総探、ボランティア活動等で自ら学校外の人々と係わる機会を1人2回/年以上持つ。 ・海外研修や異文化に接する機会を1回/学期は提供し支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総探や社会貢献活動など、学校外の人々と係わる機会を最低限確保できている。主体的な行動を伴う活動にいかに関わっていくかが課題である。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に対日理解促進交流プログラム「JENESYS」事業の一環として、タイの高校生とのオンライン交流に、本校1・2年生生徒12名が参加した。 ・フィールドワーク等で地域との繋がりは形成されてきた。国際交流という視点での活動が今後の課題である。 <p>B</p>
	<p>生徒課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動や日常生活の中で、気持ちの良い挨拶ができるようにする。 ・制服を正しく着こなし、基本的な生活習慣(遅刻をしないなど)が確立できるようにする。 ・生徒が交通ルールを遵守するように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校改善アンケート結果で、昨年度数値を上回ることを目指す。(生徒77%, 保護者47%, 教員60%)アンケートの保護者記述回答では、瀬戸高生はあいさつができる、できない、の両方の意見があったので、肯定的な意見を増やしたい。 ・教員の挨拶・指導、生徒会、風紀交通委員による挨拶運動の中で適宜注意を促す。 ・学期に1回程度、下校指導(1週間)を実施するが、教員の一人あたりの負担は減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部が中心となって朝の挨拶運動に取り組んでいるので、継続したい。 ・同じ指導回数の中で、朝の指導に加えて、下校指導も実施し、交通安全の注意喚起という点で、一定の効果はあったのではないと思う。ただ、交通事故および交通マナーについての苦情はあったので、適宜注意を促し、2学期の交通LHR(講演)などを利用して、交通安全に努めたい。 ・瀬戸高祭の文化の部2日目には、昨年度に引き続き、異装を可としたが、大きなトラブルはなかった。ただ、その雰囲気のままに服装の乱れにつながらないよう、けじめをつけた学校生活を送らせたい。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、昨年度比で数値を上回った(生徒79%, 保護者50%, 教員71%)が、学校改善アンケートの自由記述で、保護者から、「あいさつがあまりできていない」という指摘もあったので、生徒が自発的に挨拶できるように指導を継続したい。 ・生徒は、おおむね服装規定を守れているが、来年度の新制服導入を契機として、「制服の適切な着こなし」について、啓発の機会を設けたい。 ・立番指導の中に、学期に1回の割合で下校指導を組み入れた。交通安全の注意喚起という点で、一定の効果はあったと思う。来年度も、継続して実施したい。 <p>B</p>
	<p>進路指導課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひたぶるタイムがより協同的な取組となるように工夫し、クラス・学年、さらには学校外の人々と関わる機会をできるだけ多く設ける。 ・ひたぶるタイムの活動を生徒自らの「キャリア・デザイン」の形成に繋げ、社会の一構成員としての自覚を持って行動できる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生は、学年を越えてまたは学年全体・クラス全体での発表の機会を年2回は設ける。 ・1年生は外部講師を招いての講演会を学期に2回開催する。 ・2年生は、セト☆ラボの活動を通じて見出した研究課題をフィールドワーク等で深め、自身のキャリア・デザインの形成に効果的に結びつけていく。 ・キャリア・パスポート活用を意識する。 ・学校改善アンケート(生徒)における総探への積極度を昨年度(88%)より高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に真夏のセト☆フェスで発表の機会を設けた。 ・1学期に地域の方を囲む会を設け、外部講師による学びの深化をはかった。 ・キャリア・パスポートを発展的に解消した「ひたぶるノート」の利用を進めた。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月にクリスマスのセト☆フェスを実施し、生徒の発表の機会を設けた。 ・1・2年生は探究の学びを積極的に「ひたぶるノート」に記録することができた。 ・3年生は3年間の「ひたぶるノート」の蓄積を基に、志願理由書などの作成を通して、自らの進路について研鑽を深めた。 ・学校改善アンケート(生徒)における総探への積極度が90%となり、昨年度(88%)より高めることができた。 <p>B</p>
	<p>厚生課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な判断や安全意識の育成を図る。 ・救急法講習会の実施(進路選択の一助) ・悩みのある生徒への教育相談充実を進める。 ・生徒や保護者に向けての情報発信の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。自ら判断し危険を回避する能力を育成する。 ・希望者に対して、救急法講習会を実施し、学んだことを自分の人生に生かせるようにする。 ・スクールカウンセラー等の専門家の活用と連携を図り、生徒の内面的なケアに努める。 ・「保健だより」「健康通信」を通して、健康維持の啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は9月末に実施した。今年は昨年の反省を踏まえ、教員の誘導が適切か、行方不明の生徒をいち早く見つけて適切な処置ができるかを確認することに重点をおいた。昨年よりは素早い行動ができた。 ・救急法の講習会は6月に実施し、15名の生徒が受講した。進路開拓の一助になった。 ・「保健だより」「健康通信」は、節目ごとに発行しており、生徒や職員に対して健康維持の啓発を促すことができています。反面、コロナ感染者が多く出ていることは残念である。 ・スクールカウンセラー等の専門家の意見を反映し、生徒一人ひとりのきめ細やかな対応ができています。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練では行方不明者や負傷者への対応に課題が見つかったので、今後の研修で徹底していきたい。また、3年生の消火訓練でも、火に近づいて消火する方法を来年は実施したい。 ・今年は救急搬送要請する事案が多く、救急隊にも迷惑をかける結果となったが、必要なときに救急要請を躊躇するようではいけないので、研修を通じて基準を徹底したい。 ・「健康通信」は月に1回程度の発行ができず、生徒に健康管理を促す機会にはほど遠いものとなってしまった。「保健だより」は計画どおり年間を通じて発行できた。新型コロナウイルス感染対策を徹底するよう働きかけたが、全国的な波のとおり8月と12～1月に多くの感染者が出た。健康管理については、今後も様々な機会を通じて促していきたい。 ・スクールカウンセラーや保健室の利用率が高かったが、連携して対処できた。悩みを抱えている生徒や保護者が増えてきているので、今後も担当者を中心に多くの教員が関わる形を構築し、対処していくことが望まれる。 <p>B</p>

1年	<ul style="list-style-type: none"> 自分からすすんで、気持ちのよい挨拶をする。感謝の気持ちを言葉にする。 好きなものや考え方が違って当たり前、先生や友人との対話を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査において、肯定的回答が増加することを目指す。 学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的に挨拶をしていますか。」の質問項目において肯定的評価が80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシート「自分から気持ちのこもった挨拶をすることができましたか。」肯定的回答77.7%。「感謝の気持ちを言葉にすることができましたか。」肯定的回答95.9%。 どちらも肯定的回答をした生徒の割合がすでに高く、これ以上に増加することはなかなか難しいと考えられるが、引き続き対話を大切にする指導を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校改善アンケート・2学期の振り返りシート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的に挨拶をしていますか。」肯定的評価が74%「自分から気持ちのこもった挨拶をすることができましたか。」肯定的回答84.9%「感謝の気持ちを言葉にすることができましたか。」肯定的回答95.9%。 挨拶については、振り返りシートにおいて肯定的回答をした生徒の割合が増加した。挨拶や感謝の気持ち以外にも、友人や家族、教員との対話を大切にするように呼びかけていきたい。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちのこもった挨拶をする。 先生や友人との対話を大切にす。 みんな違って、みんないい。互いを認め合い、尊重し、励まし合いながら進路実現に向けて自走する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査において、肯定的回答が85%以上になることを目指す。 学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」、「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の質問項目において肯定的評価が85%以上なることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期振り返りシート「さらに気持ちのこもった挨拶をすることができましたか。」肯定的回答92%「先生や友人との対話をもっと大切にすることができましたか。」肯定的回答96%「みんな違って、みんないい。その思いを校内外で応用し、互いを認め合い、尊重し、励まし合うことができましたか。」肯定的回答97% 生徒個々の問題に対して、クラス担任を中心に、年次団全体で対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期振り返りシートさらに気持ちのこもった挨拶をすることができましたか。肯定的回答96%先生や友人との対話をもっと大切にすることができましたか。肯定的回答98%みんな違って、みんないい。その思いを校内外で応用し、互いを認め合い、尊重し、励まし合うことができましたか。肯定的回答96% 年次団全体で情報を共有しながら指導することができた。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 学年、クラスなどでの良好な人間関係の維持に努める。 お互いを高めあえる雰囲気作りを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校内行事の協働する場面で、お互いを思いやる態度、意識を高める。 入試に向けての学習などで良いライバル意識を持つことにより、互いに切磋琢磨できる環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸校祭などの経験から、良好な態度・意識の向上が図れている生徒は多い(約70%の生徒が普段から言葉遣いに気を付けている)が、この関係を「良きライバル」としてとらえることができる生徒は少ない。生徒は一人で努力する力はあるが、周りの環境づくりができるよう教員側が働き掛けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校改善アンケートでは、「学校で先生やほかの生徒を1人の人間として尊重していますか?」の項目で97%が肯定的回答をしていた。また、言葉遣いは70%、周りを見ての行動は60%の生徒が普段から意識している。このことから、大きなトラブルもなく生活ができた。入試を控える中においては、「良きライバル」または「高めあう仲間」として、お互いに励ましあいながら頑張る姿も見受けられた。
いじめ対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育室、教育相談室などと連携をはかり、いじめの早期発見に努める。また人権教育講演会などを通して、人権・いじめに対する問題意識を高める。スタンドバイの活用と、各学期アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、いじめと認知される件数は3件(友人関係・学校生活での人間関係、部活動内での人間関係、SNS上での誹謗中傷)であり、うち2件は生徒課の指導を行い、その後見守っている状況である。 スタンドバイや各学期のアンケート結果をもとに、早期発見、解決に努め、いじめのない学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 今のところ、いじめと認知される案件はないが、今後の展開によってはいじめと認知される可能性のある案件、および、人間関係の軽微なトラブルは、恒常的に発生している。学年団、関係部署と連絡を密にして、いじめの早期発見、早期対応に努めたい。 スタンドバイの利用は、9月時点で1件である。いじめに関わるものではないが、今後も事態を見守ってゆきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの事案として取り上げた件はなかった。人間関係をめぐる案件はあったが、担任、関係部署のきめ細かい対応によって、大事には至らなかった。コロナの影響で、学校行事の中止、規模縮小、各大会の中止などによって、人間関係を学ぶ機会が減り、その影響もあるのか、人間関係作り、集団生活が苦手な生徒が増えたように思う。今後も、学年団、関係部署と連絡を密にして、いじめの早期発見、早期対応に努めたい。 スタンドバイについては、2学期以降、相談はなかったが、設置の趣旨に鑑みて、継続的に取り組みたい。

④ 郷土・地域の将来を考え、周囲と連携しながら行動する力と社会変革の担い手としてイノベーションを起し、エージェンシーを發揮する力の育成を図る。 (協調)	教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール、学校説明会、ホームページ等の広報活動を充実させ、瀬戸高校の魅力発信を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新数(65回)・アクセス数(1日平均123回)、中学校訪問の回数(32回)を前年度以上にする。 ・ブログの更新を教務課だけではなくすべての課で行えるようにし、学校全体で広報活動を担える体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新数47回、アクセス数1日平均124回、中学校訪問34校(9月1日現在)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新数70回、アクセス数1日平均117回、中学校訪問34校(1月12日現在)。 ・県立高校紹介動画を作成し、年度内公開予定である。 ・12月現在の生徒募集(進学希望者)は193人・1.21倍(昨年152人・0.95倍)であった。 ・1月現在の生徒募集(進学希望者)は181人・1.13倍(昨年149人・0.93倍)であった。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動先の開拓を進め、生徒が様々な活動に取り組めるようにする。 ・社会貢献活動の様子や成果を各連携先や保護者へ、報告書やHPなどで積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校改善アンケートの「社会貢献活動に積極的に取り組んでいると思いますか」に肯定的な回答をする保護者の割合が昨年度(43%)以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月末から8月上旬にかけて1年生を中心に社会貢献活動を実施した。活動先はほぼ昨年度と同じである。 ・10月14日には、本校の生徒が高陽中学校3年生との座談会(「総合的な学習の時間」の中でのキャリア教育の一環)に19名の生徒が参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月末にも1年生約40名が4カ所(瀬戸公民館、瀬戸公園、山根公園、光明谷コミュニティ広場)での社会貢献活動に参加した。 ・学校改善アンケートの「社会貢献活動に積極的に取り組んでいると思いますか」に肯定的な回答をする保護者の割合は41%であった。(生徒の肯定的な回答の割合は62%(昨年度50%)であった。) 	B
	厚生課	<ul style="list-style-type: none"> ・校外ボランティア活動の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸町学区、県教委などが主催する防災関連の行事に生徒が参加し、救急法や防災に関する学習内容を伝える。また、教員も防災関連の研修等に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月19日の江西学区防災キャンプで、救急法の講習会で学んだ生徒が出向き実技講習をする予定していたが、他の研修内容を実施することになり参加しないことになった。また、総合的な探究の時間で学んでいる生徒が、地域住民とともに避難所運営に関する意見交換を図り、当日の発表に向けて作業を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災キャンプで、救急法の講座が実施されず、受講した生徒が出向き伝達するということができなかった。しかし、2年生で総合的な探究の時間で、防災関連について探究している生徒が、瀬戸町版避難所運営ゲームを開発し、地域の人に伝えることができた。 	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが自ら進んで探究活動等を深め、校内外でその成果を積極的に発信できるよう促す。その結果として、生徒の内的動機付けを高め、イノベーションを起し、エージェンシーを發揮する力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や学年団をはじめ、関係教員が生徒の進路希望等を把握しながら、校内外での発信の場を適切に選択・提供し、昨年度以上の積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の「真夏のセトフェス」では多くのグループが適切に活動状況や提案を発信することができた。発表会には校外からも多くの方が視聴に来ていただいたが、それ以外の場面で校外への発信やイベント等への参加の機会は無かった。探究フォーラムやマイプロジェクトアワードへの参加は未定だが、年度後半の探究活動や冬の発表等のプロセスの中に、校外発信の場を組み込んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月の「クリスマスのセトフェス」では、1年生は、9月以降の活動で伺った話やフィールドワークで「見つけた」課題をシンキングツールにまとめて中間発表し、2年生は、中間発表を深化させ、チームで立てた「問い」について地域や企業の方と「つながる力」を發揮したフィールドワークによって聞き取った内容や、書籍(学問)・データを多角的に分析して得た課題解決の視点をプレゼンテーションできた。マイプロジェクトアワード2022に3チームがエントリーし、うち2チームが中四国大会に進出している。またSTEAMフェスタ2023にも3チームがエントリーし、取組の中で成長を遂げた。 	A
	全学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに「社会変革の担い手」であることを意識させ、ひたぶるタイム等の活動に主体的に取り組ませることで、社会に参画する積極性を向上させ、キャリア意識を高めるとともに、自己肯定感・自己有用感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で活動が制約される場面も多いが、オンライン等も効果的に活用しながら目的を達成したい。アンケート「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがあるか」の肯定的な回答が前年度以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひたぶるタイムでは、年次担当者を中心に見通しを示しながら計画的に探究活動を進めることができている。地域社会の諸課題に目を向けることや、SDGsの観点で学問分野・企業活動の話聞き視野を広げていく機会が設けられた。個々の興味関心(やりたいこと)と社会参画(求められること)、具体的な提案や実践(できること)のいずれも欠くことがないように、活動支援を続けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひたぶるタイムの各段階における発表やフィールドワークなどの探究プログラムに加え、地域行事への参加、中学校座談会参加、海外高校生とのオンライン交流など、視野を広げたり自信を付けたりしながら、社会参画の態度が養われている。セトフェスでの先輩の発表や、大学の先生等からいただく質問・コメントなどによって、活動の意義を確認し、自身の有能感も得ることができている。地域や社会に対する考えについてのアンケート項目へは、1年生で6割程度が肯定的な回答をした。2年次生は1学期74%(1年次65%)、2学期73%(1年次55%)が肯定的な回答をしており、意識の向上が見られる。 	B